

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600244		
法人名	社会福祉法人正清会		
事業所名	グループホーム白松苑		
所在地	山口県山口市阿知須4900番地4		
自己評価作成日	平成29年11月21日	評価結果市町受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年12月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食を共に作り、一緒にいただいている。入居者の希望を聞きながら、好みの物を提供している。地域の人達を巻き込んだ行事を行っており、入居者と地域の人とが交流している。四季を感じる行事を行っている。行事を行う際も、昔ながらのなじみのあるやり方で行っている。幼稚園・小学校・中学校と交流がある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修の情報を職員に伝えられ、職員の段階や希望に応じて、実践者研修やリーダー研修、社会福祉協議会主催の救急救命法など月2回程度、職員に受講の機会を提供され、内部研修で復命報告して共有しておられる他、法人研修や内部研修など、職員が働きながら学べるように支援しておられます。事業所の畑で採れた野菜や差し入れの旬の野菜などを使って三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者と職員は同じテーブルを囲んで一緒に食事をされ、季節の行事食やおやつづくりなど、食事が楽しめるように支援しておられます。利用者と職員と一緒に地域の文化祭やふれあい祭り、夏祭り、中学校の運動会に出かけられて、地域の人と交流されたり、地域の防災訓練や清掃作業に職員が参加されているほか、地域のいきいきサロンに場所を提供され、利用者も参加されて交流しておられるなど、事業所は地域の一員として日常的に交流しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方とふれあいを持つ」を理念にかかげて、地域活動に参加する事を全職員が共有し、実践している	「地域の方とふれあいを持つ」という理念を事業所内に掲示して、事業所だよりも記載している。朝の申し送り時などで職員と話し合い、共有して実践につなげるように努めている。	・理念の検討
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会総会・やきいも・いきいきサロン・クリン作戦・地域の防災訓練	自治会に加入し、自治会報の配布がある。自治会の総会や年2回の清掃作業に職員が参加している。地域の文化祭に利用者の作品を出展している。地域のふれあい祭りや夏祭りに利用者と職員が一緒に出かけ、地域の人と交流している。地域の防災訓練に職員が参加している。児童施設の祭りに参加したり、幼稚園の誕生日会に利用者の手づくりカレンダーを持参して交流している。中学校の体育祭の見学に出かけている。管理者は、地域の認知症の出前講座の講師をしている他、年2回、事業所が地域のいきいきサロンへ場所の提供をし、利用者も参加している。ボランティア(大正琴、コーラス、オカリナ、日本舞踊)や小学生の来訪がある。地域の人から花や新聞紙のゴミ袋などの差し入れがある。散歩時には挨拶を交わしたり、花壇の花を植え替える時に声をかけてくれるなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンの代表者の方に、「認知症について」の勉強会開催日程について相談中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各自自己評価を行い、職員会議で意見を出し合っている。評価を活かした具体的な改善には至っていない	管理者は職員会議で評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、職員は書ける範囲で書き入れ、ユニット毎に話し合い、管理者とユニットリーダーがまとめている。前回の外部評価の結果を受けて、目標達成計画を作成し、応急手当や初期対応の訓練を法人研修や内部研修で取り組んでいる他、社会福祉協議会の救急救命法を受講しているなど、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、報告や話し合いを行っている。防災頭巾の作成の話が出たが、完成までには至っていない	会議は2ヶ月に1回開催し、活動報告、利用者の状況、事故報告、自己評価について報告し、話し合っている。年1回の昼間想定火災時の避難訓練にメンバーが参加している。メンバーから、避難訓練時に利用者の身を守るための防災頭巾づくりの提案があり、タオルやバスタオルを持ち寄って、利用者と一緒に作成し、訓練時に身につけているなど、そこでの提案をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	転倒し、危険のある入居者に対し、T字バー購入の際、自己負担か施設負担なのかについて相談した	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いたり、電話やFAXで相談し助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、利用者状況などを電話で連絡するなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて法人内の研修に参加し、GH職員会議にて全職員に復命を行って正しく理解している。昼間は玄関に鍵はかけないで、出掛けられる方には一緒に出掛けている	内部研修を実施し、職員は理解をして拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をせず、外出したい利用者とは一緒に出かけたり、ドライブをしているなど、工夫して支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やGHの職員会議で「虐待」について学ぶ機会を設けており、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は、必要とされる方がおられないが、必要性があれば、学ぶ機会を持ちたいと思っている。12月22日に成年後見人制度の研修に参加予定		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時に説明し、納得を頂いている。入居前自宅訪問も実施しご家族の不安や疑問点など尋ね納得を得ている。転倒もあり得る事も説明している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの相談や苦情について面会時などにお聞きし、あれば運営者に報告し内容について話し合いの機会を設けている。意見要望を職員とも話し合う様にしている。利用者の見守りの為に早番勤務を作り安心していただいている	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時、運営推進会議時、電話、月1回の個別の手紙や写真などの送付時、3ヶ月に1回の事業所だより送付時、年1回の家族会(敬老会)などで、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。家族からのケアについての要望に対しては、その都度、対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の時に、管理者は職員の意見や提案を聞き出すようにしている	管理者は月1回の職員会議時や申し送り時、日常業務の中で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。利用者の支援の充実や家族状況等による勤務体制の変更などを反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人に人事考課制度があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修に参加しGH職員会議にて復命を行っている。医療的ケア実践研修に参加している	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は月1回の職員会議時に復命研修を実施している。今年度は月2回程度参加し、リーダー、実践者、新任研修などの資格取得の研修の他、認知症研修会などに参加している。法人研修は、リスクマネジメント、アセスメントシートの記録方法に参加し、復命している。内部研修は、月1回、虐待防止、倫理、酸素吸入、吸引や感染症などの初期対応、応急手当の訓練を実施している。新人職員は外部研修受講後、日常業務の中で介護の技術や知識を働きながら学べるように支援している。	・研修記録の整理
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会・勉強会に参加している。利用者の健康診断について問い合わせをした事がある		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前施設や家族から情報を頂き、ご本人が早く安心して生活が出来る様、対話に努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族と連携を密にし、要望等をお聞きしながら、信頼関係に努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人・家族のその時必要なサービスの対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から昔の事など教えて頂く事も多く、昔の知恵を今の生活に生かし、共に生活する立場を築くよう努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションをとり、行事にも一緒に参加され共に本人を支えて行く関係を築いている。毎月1回手紙と写真を送り、状況等お知らせしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方と食事と温泉に行かれています。ふれあい祭りで、昔から行かれていますお店で買い物をされている	家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話や年賀状での交流を支援している。馴染みの店での買い物、自宅周辺のドライブ、馴染みの美容院の利用、地元の祭りへ出かけている他、家族の協力を得ての外出、外泊、墓参り、葬儀や結婚式への出席、行きつけの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で休まれている方に対して「あのおばあちゃんは？」と気にかけて下さる。お茶の時間や食事の時間も「ご飯一緒にいこうやー」等誘い合ってもらっている。洗濯物たたみなど声を掛け合っておられる		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先のお見舞いに出掛けたり、電話連絡で状況をお伝えしたり、お聞きしたりして「お困りの事はありますか？」とお尋ねしています。併設の特養へ移動された時には声を掛けて、本人・家族との会話も出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やカンファレンス等で本人の意向を確認して希望が叶えられるよう支援している。常に本人に寄り添い、職員間で情報交換をしている	個人生活史記録やアセスメント情報シートを活用しているほか、日々の関わりの中での言葉や過ごし方、表情などを連絡帳やケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら前サービス提供者や家族からの情報・生活歴などをお聞きして、これからの暮らしの把握に努めている。自宅を訪問したり、ケアマネージャーからの情報も頂いている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入浴の時間はお一人お一人に関わる大切な時間であり、コミュニケーションも取れて、ゆっくりと対応出来ている。個々の一日の過ごし方や、ペースに合わせ、その都度その方に合ったケアに努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが続けられるよう、1か月ごとのモニタリングで見直しを行っている。必要な関係者と、半年に一回のカンファレンス時・必要時に話し合いを行い、より良い生活の為に介護計画を作成している。ご家族がカンファレンスや認定調査に参加されるよう声掛けは行っている。参加には至っていないが今後も声掛けは行っていく	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回のカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態や要望に応じてその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入や職員間の連絡帳の記入により、その都度情報を共有して気づき又は、相談事を話すようにしている。日々の様子を個別に記録している。ケアプランの実践やモニタリングなどに生かしている。GH職員会議で一人一人の情報を意見を出し合い共有している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中で、居室が空いている時は、必要に応じてショートステイの受け入れも行う		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々と四季折々の暮らしを楽しまれている。(そうめん流し、しめ縄作り、運動会、文化祭、ひなもん、餅つき、カラオケ、舞踊、よさこい、コーラス)		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と連携を密にし、信頼関係を築き、納得と同意を得て本人の希望に応じている。協力医療機関を、かかりつけ医として専門医の受診は、職員が同行し、家族の協力も得ている。希望される病院の受診を行っている。希望時は歯科の往診もある	協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診情報は個人ファイルのバイタルチェック表を持参し、医師に伝えている。受診結果は電話で家族に伝えている。他、面会時にも伝えている。職員間では介護記録や連絡帳に記録し、申し送り時や月1回の職員会議時に確認し、共有している。夜間や緊急時には、協力医療機関に連絡し、指示を受けて対応しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護職と連携を持ち、急な対応にも協力して貰っている。利用者の状況を報告相談し、必要な情報を貰って、本人が安心して生活出来る様に支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提供して、支援方法を伝えている。退院時には病院関係者・本人・家族と連携を取り、話し合っている。入院中もお見舞いに行っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を入居時に説明し、重度化した場合には、早い段階から、本人、家族と何度も話し合いを重ね、事業所でする事を説明し、医師と連携を取り方針を共有し支援に取り組んでいる	契約時に「看取りに関する指針」の基づいて、事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医や法人の看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生後、報告書を記入し、再発防止するには、どうしたらいいか職員同士で話し合っている。特に注意すべき入居者には、個人的なマニュアルを作成しており、急変時に備えている	事例が発生した場合は、ニアミス報告書や事故報告書にその日の職員間で再発防止策を話し合って記録し、申し送り時に伝え、各ユニット会議時で話し合い、共有している。法人のリスクマネジメント委員会で検討後、職員会議時に再検討をして一人ひとりの事故防止に努めている。事故発生時に備えて、社会福祉協議会主催の救急救命法を受講している他、法人研修のリスクマネジメント、事故防止、内部研修の感染症、酸素吸入などを実施し、転倒時の対応、意識消失、ノロウイルスなどについてマニュアルに基づいて検討策を話し合っている。地域の防災訓練時には熱中症、止血法、気道異物除去、心肺蘇生法などの訓練をしているが、全職員が実戦力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	GH内で年3回訓練を行っている。年1回は、地域の人を巻き込んだGHでの避難訓練を行っている。訓練後には、反省点や課題など意見をもらっている	年3回、事業所独自で昼間想定それぞれ、火災通報、消火、避難誘導訓練、地震時避難誘導訓練、風水害時避難誘導訓練を利用者と一緒に行っている。内1回は、運営推進会議に合わせて実施し、利用者と共に地域の人や家族も参加している。地域の防災訓練には職員が参加し、救急対応や避難訓練を地域の人と一緒に実施しているなど、地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち、本人を尊重した対応・言葉かけを行っている。トイレの声掛けについては、周囲に気づかれないように、耳元で小さい声で伝えている。入浴は一人一人入られている。ポータブルトイレの掃除時は、蓋をするなど配慮している。	法人研修で接遇マナーについて学び、内部研修で復命研修をして共有し、職員は理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は、管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。個人情報の保管に留意するとともに、守秘義務についても理解し遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で「どうされますか？どれにされますか？」等、本人が選択しやすいように声掛けを行っている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合ったペースで、一日を過ごして頂けるよう支援している。その方の生活リズムを大切にしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は、化粧水やクリームをつけたり起床後はお化粧をされている。寝癖が付いている方には髪を梳かす時クリームをつけて整容されている。外出時はその人らしいおしゃれが出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食共に利用者・職員で作っている。さつまい芋等収穫し食卓に上がる。野菜のしごや盛り付け、配膳などその方に出来る事をして頂いている。今度食べたい物などをお聞きし提供をしている。芋掘りを行い、天ぷら、ふかし芋にしたり、四季折々の食事を楽しんでもらっている	法人の栄養士の助言を得て献立を作成し、利用者の好みを聞き、事業所の畑で収穫した野菜や家族からの差し入れの野菜などを使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は食材の買い物や下ごしらえ、台拭き、配膳、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで、同じ物を食べながら食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、恵方巻き、クリスマスなど)やおやつづくり(柏餅、おはぎなど)、家族からの差し入れの柿で干し柿づくり、切り干し大根づくり、家族の協力を得ての夕食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量の記録をし、甘酒、おしるこ、夏はスイカ等、好きな物を提供している。特養の管理栄養士にバランス等献立も相談に乗ってもらっている。看護師にも相談している。栄養補助食品も使っている			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人、毎食後イソジンガーグル、緑茶などでうがいをして頂いている。夕食後に義歯をポリドントにて消毒している。ご自分で出来る方はご自分でされている			
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方にあったタイミングで誘導が出来る。排泄記録を記入し、その方に合った排泄用品を検討し、トイレでの排泄に向け全職員が支援している	排泄記録を活用し、一人ひとりの排泄パターン把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をしてトイレでの排泄ができるよう支援している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、便秘にならないように汁物には繊維のある野菜をたくさん取り入れて、食べ物の工夫を行っている。散歩にも行っている。オリゴ糖ヨーグルト、ヤクルト、R1の提供も行って、予防に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日午後、楽しんで入浴出来るよう一人でゆっくりその方に合った入浴支援をしている。希望があれば、午前中でも入浴対応できる。冬至のゆず湯や入浴剤も取り入れている。入浴の嫌いな方もあるが、時間を置き他の職員の声掛け等、工夫して入浴して頂いている	入浴は毎日、14時から17時の間可能で、利用者の希望に応じてゆったりと入浴できるよう支援をしている。体調に応じて清拭、足浴、シャワー浴などの支援をしている。入浴したくない人には無理強いをせず、時間の変更、職員の交代、言葉かけの工夫をしているなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて好きな時間にベッドに誘導して休息してもらっている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について、薬局から利用者様一人一人の服用薬品名カードを頂き把握している。大きいカプセルの飲み方について薬局に相談した		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	母の日、七夕、敬老会、十五夜、文化祭の作品作り、カレンダー作り、クリスマス、しめ縄作り、餅つき、節分、ひな祭り、さつま芋の植え付け、収穫、夏祭り、幼稚園、小中学校生とのふれあい、花火、カラオケ、生け花、塗り絵、洗濯物を畳む、掃除等活躍できる場面作りや楽しみごとの支援をしている	野菜の植え付け、草取り、水やり、収穫、モップ掛け、落葉掃き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、台拭き、配膳、下膳、食器洗い、タオル体操、ラジオ体操、リハビリ体操、裁縫、ゴミ袋づくり、干支の貼り絵、カレンダーづくり、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙、編み物、お手玉づくり、カラオケ、カルタ、テレビ視聴、新聞や週刊誌を読む、ボランティア(大正琴、コーラス、オカリナ、日本舞踊)との交流、季節の行事(節分、七夕、敬老会、クリスマスなど)、おやつづくりなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況、希望に合わせて散歩をしたり、花見(桜、菖蒲、あじさい、バラ)、ホテル見学、ぶどう狩り、中学校の運動会見学、文化祭見学、公園へ外出、ひなもんまつり、買い物、ドライブ等戸外へ出掛けられるよう支援している。ひ孫さんの顔を見に自宅へ帰られている	周辺の散歩、食材の買い物、馴染みの美容院の利用、自宅周辺のドライブ、季節の花見(菜の花、桜、バラ、芝桜、菖蒲、紫陽花)、虫見物、ぶどう狩り、花火見物、中学校の運動会、幼稚園の誕生会、道の駅、地域の文化祭、ふれあい祭りなどの他、家族の協力を得ての外出、外食、馴染みの美容院の利用、法事や結婚式への出席、墓参りなど、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ふれあい祭り・北向き地藏お参り・十日市には、おこずかいを持って出掛けており、支援している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と固定電話で話されている。手が不自由な入居者に代わって、手紙の代筆をしている。年賀状も書かれている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者と一緒に飾りつけたクリスマスツリーや布で作った飾り物、利用者が生けた生け花などを飾り、窓から見える田畑の風景も季節を感じる事が出来る。廊下にはソファを配置し、うとうとしたり、気持ちの良い場所がある。利用者の家族が来苑された時、ゆっくり歓談できる、共有の空間は広く、明るく、温度などにも配慮している	玄関には利用者が生けた季節の花を飾り、鉢植えの木を置いている。リビングは天窓から入る陽ざしで明るく、広々としている。廊下やリビングにはソファを配置し、利用者が思い思いにくつろげる居場所づくりの工夫をしている。壁には利用者と職員が作成した干支の貼り絵を掲示し、クリスマスツリーを飾って、季節を感じることができる。行事の写真や手づくりのカレンダーが貼ってある。対面式の台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後に気の合った利用者同士、希望の方などには、コーヒーを飲まれたりゆっくりされている。②居室や廊下のソファで仲の良い方と会話を楽しまれている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居時に説明を行い、ご本人が使用されている馴染みのダンス、机、いす、時計、遺影、ぬいぐるみ、人形、カレンダー、観葉植物等好みの物などを持ち込んで、本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している	ベッド、テレビ、衣裳ケース、ダンス、冷蔵庫、花瓶、時計、机、ぬいぐるみ、ソファ、ラジオカセット、カラーボックスなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、造花、花鉢、家族の写真、カレンダー、手づくりの賞状、手づくり作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカー、車椅子が移動されやすい空間を保持し、生活環境を整えている。居室内で転倒した時に衝撃を軽く出来るようマットを敷いている。安心して移動して頂けるよう障害物を置かないようにしている		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム白松苑

作成日：平成 30 年 4 月 25 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現状のグループホームの理念は、 ・家族のように共に生活する ・地域の方とふれあいを持つ の2点であるが、利用者個々への理念が示されていない。	利用者個々の尊厳に配慮した理念を追加する。	・管理者、ユニットリーダーが各職員の思いを把握する。 ・管理者、ユニットリーダーが協議して、利用者の個々の尊厳に配慮した理念を考える。 ・運営推進会議で承認を得て、理念を追加する。	2ヶ月
2	9	受講後は毎月の定例会議及び復命書で全職員への情報共有・周知徹底をしているが、定例会議に出席できなかった職員へ共有・周知できた記録がない。	全職員へ情報共有・周知徹底できる仕組み及び記録の構築・整備。	・管理者、ユニットリーダーで仕組み・記録の構築・整備を検討する。 ・定例会議で全職員に周知する。	2ヶ月
3	15	併設特養の移転に伴い、同一・隣接敷地内に看護職員が不在となる。 今後の応急手当や初期対応の定期的訓練の継続体制が課題である。	応急手当や急変時の初期対応等について、医療専門職による定期的訓練の体制構築。	・訪問看護ステーションの看護師に講義を依頼。 ・年1～2回程度、訓練を実施する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。